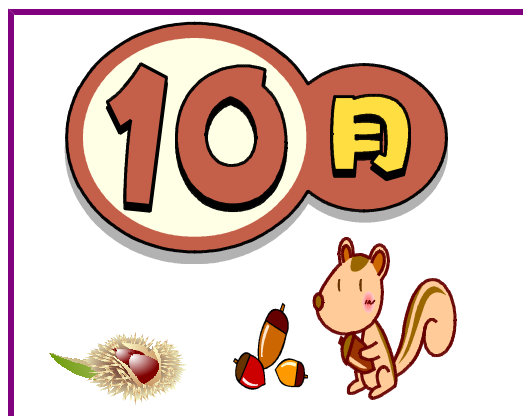


めぐみイエス・キリスト教会

2020年10月25日(日)第四主日礼拝
週報「通算第529号」



2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年10月25日 第四主日礼拝 午前10時
司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌458「光の高地に」 p. 734

【交読文】 No.60 ヨハネの黙示録第21章抜粋 p. 928

【賛美Ⅱ】 新聖歌332「主はまことのぶどうの木」 p. 528

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.18「聖なるお方」

【聖書朗読】 使徒の働き6章1節～7節(2017新約p. 243上段)

【礼拝説教】 《七人の執事の選出》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所(使徒の働き6章1節～7節)

6:1 そのころ、弟子の数が増えるにつれて、ギリシア語を使うユダヤ人たちから、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して苦情が出た。彼らのうちのやもめたちが、毎日の配給においてなおざりにされていたからである。

6:2 そこで、十二人は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神の言葉を後回しにして、食卓のことに仕えるのは良くありません。

6:3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵に満ちた、評判の良い人たちを七人選びなさい。その人たちにこの務めを任せることにして、

6:4 私たちは祈りと、み言葉の奉仕に専念します。」

6:5 この提案を一同はみな喜んで受け入れた。そして彼らは、信仰と聖霊に満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、そしてアンティオキアの改宗者ニコラオを選び、

6:6 この人たちを使徒たちの前に立たせた。使徒たちは祈って、彼らの上に手を置いた。

6:7 こうして、神の言葉はますます広まっていき、エルサレムで弟子の数が非常に増えていった。また、祭司たちが大勢、次々と信仰に入った。

●ポイント1. ギリシャ語を使うユダヤ人とヘブル語を使うユダヤ人とは？
※使徒の働き2章5節～11節前「ペンテコステにおいて」(新約p.234上段)

●ポイント2. 使徒たちが提案した「七人」の選出条件とは？

①「あなたがたの中から」

②「御霊に満ちている」

③「知恵に満ちている」

④「評判の良い」

※ピリピ人への手紙4章8節「使徒パウロの勧めから」(新約p.399下段)

4:8 最後に、兄弟たち。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて評判の良いことに、また、何か徳とされることや称賛に値することがあれば、そのようなことに心を留めなさい。

●ポイント3. 七人の執事たちの選出によって、教会に起こった事とは？

※ヨハネの福音書13章34節～35節「主イエスの約束」(新約p.213上段)

13:34「私はあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

13:35互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたが私の弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」

※使徒の働き23章8節「パウロの議会裁判において」(新約p.283下段)

23:8 サドカイ人は復活も御使いも霊もないと言い、パリサイ人はいずれも認めているからである。

◎先週のメッセージの概要【ガマリエルの忠告】

《ユダヤ最高法院は、使徒のリーダーのペテロの発言を聞き、祭司長や祭司たちサドカイ人は、怒り狂い、使徒たちを殺そうと考えたのです。その時、律法学者でパリサイ派に属するガマリエルが、立ち上がります。そして使徒たちを、一時外に退去させると、ガマリエルは話し始めました。「イスラエルの皆さん、この者たちをどう扱うか、よく気をつけて下さい。先ごろチウダが立ち上がって、自分を何か偉い者のように言い、彼に従った男の数が400人ほどになりました。しかし彼は殺され、従った者たちはみな散らされて、跡形もなくなりました。彼の後、住民登録の時に、ガリラヤ人のユダが立ち上がり、民をそそのかして反乱を起こしましたが、彼も滅び、彼に従った者たちもみな散らされてしまいました。そこで今、私はあなたがたに申し上げたい。この者たちから手を引き、放っておきなさい。もしその計画や行動が人間から出たものなら、自滅するでしょう。しかし、もしそれが神から出たものなら、彼らを滅ぼすことはできないでしょう。もしかすると、あなたがたは神に敵対する者になってしまいます。」と。

ガマリエルは、当時のエルサレムだけでなく、全ユダヤにおいて、最も尊敬され信頼された人物でした。彼はヒルレル派に属し、その主義は、神の愛と隣人愛を強調したものでありました。「ラビ」(私の教師)よりも、もっと優れた尊称である「ラバン」(私たちの教師)と呼ばれていました。タルムードによれば、紀元50年頃死んだと伝えられています。ガマリエルは終生エルサレムに留まりました。サウロ(パウロ)の恩師でもありました。

実は、ガマリエルがまだ存命であった頃に、改心したサウロは、その後3回ほどエルサレムに上っています。救われて間もない紀元37年。大飢饉の時に、献金を携えた紀元48年。そして第一回教会会議が行なわれた紀元49年から50年にかけてです。この時、パウロはガマリエルに会っていると思われます。特に紀元50年は、ガマリエルが召された頃と一致し、パウロは恩師の最後を看取ることができたのではないのでしょうか。》

◎お知らせ

※次回礼拝は11月1日(日)教会において。10月21日(水)に行なわれた、故石井武志さんの葬儀に教会から、お花料を贈らせていただきました。